

大学入試問題選

【解答】

1 上代・中古

1 「古事記」の成立した時期はいつか。最も適切なものを一つ選びなさい。

- (1) 聖武天皇 (2) 柿本人麻呂 (3) 舍人親王
 (4) 聖德太子 (5) 稗田阿礼

2 「日本書紀」の成立に關係の深い人物の名を一つ選びなさい。

(明治大)

- (1) 七世紀初め (2) 七世紀末 (3) 八世紀初め
 (4) 八世紀末 (5) 九世紀初め

3 「万葉集」に関する次の文章の空所A～Dに該当するものを後から一つずつ選びなさい。

(神戸女学院大)

- 「万葉集」は「A」世紀半ばに成立した我が国現存最古の歌集で、編者は「B」かと言われている。その内容は大きく相聞、挽歌、雜歌に分けられ、「B」以外の代表的な歌人として、「C」、「D」らがいる。

- (1) 聖武天皇 (2) 柿本人麻呂 (3) 舍人親王
 (4) 聖德太子 (5) 稗田阿礼
 (6) 紀貫之 (7) 大伴家持
 (8) 小野小町 (9) 山部赤人
 (10) 藤原俊成

4 嵐峨天皇が編纂を命じた(A)漢詩集名と、弘法大師が編述した(B)作品名をそれぞれ一つ選びなさい。

(西南学院大)

- (A) (1) 凌雲集 (2) 性靈集 (3) 懐風藻
 (B) (1) 本朝文粹 (2) 池亭記 (3) 文華秀麗集
 (4) 文鏡秘府論

5 「生きとし生けるものいづれか歌を詠まさりける」の語句は日本最初の勅撰和歌集の序文にある。歌集の名前とその序文の著者をそれぞれ一つ選びなさい。

(神戸女学院大)

- (1) 小倉百人一首 (2) 古今和歌集 (3) 山家集
 (4) 千載和歌集 (5) 万葉集 (6) 大伴家持
 (7) 紀貫之 (8) 西行法師 (9) 藤原定家
 (10) 藤原俊成

6 「古今和歌集」所収歌は年代的に三期に分けられている。正しいものを一つ選びなさい。

(立正大)

- (1) 撰者時代～六歌仙時代～よみ人知らずの時代
 (2) よみ人知らずの時代～撰者時代～六歌仙時代
 (3) 六歌仙時代～よみ人知らずの時代～撰者時代
 (4) よみ人知らずの時代～六歌仙時代～撰者時代

5 歌集著者

- (B) (A)
 (4) (1)
 (7) (2)

6 「古今和歌集」など八つの勅撰和歌集は「八代集」と呼ばれているが、「八代集」でないものを次の中から一つ選びなさい。

(清泉女子大)

- (1) 后拾遺和歌集 (2) 後拾遺和歌集
 (3) 続古今和歌集 (4) 金葉和歌集
 (5) 詞花和歌集

6 歌集著者

- (B) (A)
 (4) (1)
 (7) (2)

7 「在中将」は、六歌仙の一人として著名である。次の

(西南学院大)

- 中から他の六歌仙を一人選びなさい。(学習院女子大)

(立正大)

5 摂者時代～よみ人知らずの時代～六歌仙時代

(福岡大)

- (1) 紀貫之 (2) 和泉式部 (3) 大伴家持
 (4) 小野小町 (5) 藤原定家

(鹿児島大)

8 清原元輔は梨壺の五人の一人であるが、彼が編纂に携わった勅撰和歌集を一つ選びなさい。(西南学院大)

(鹿児島大)

- (1) 万葉集 (2) 古今和歌集 (3) 後拾遺和歌集
 (4) 新古今和歌集 (5) 後古今和歌集

(鹿児島大)

9 藤原俊成が摂者で、平忠度の歌が「詠み人知らず」として収められている勅撰集を一つ選びなさい。

(明治大)

- (1) 拾遺和歌集 (2) 金葉和歌集 (3) 詞花和歌集
 (4) 千載和歌集 (5) 新古今和歌集

(鹿児島大)

10 「万葉集」から「新古今和歌集」までの歌集を古い方から年代順に並べるとどうなるか。正しいものを選びなさい。

(明治大)

- (1) 万葉集・古今和歌集・千載和歌集・後撰和歌集・後拾遺和歌集・新古今和歌集
 (2) 万葉集・古今和歌集・後撰和歌集・後拾遺和歌集・千載和歌集・新古今和歌集

(鹿児島大)

11 「古今和歌集」「新古今和歌集」など八つの勅撰和歌集は「八代集」と呼ばれているが、「八代集」でないものを次の中から一つ選びなさい。

(清泉女子大)

- (1) 拾遺和歌集 (2) 後拾遺和歌集
 (3) 続古今和歌集 (4) 金葉和歌集
 (5) 詞花和歌集

(九州産業大)

12 後白河院が編纂にかかわった作品を一つ選びなさい。

(九州産業大)

- (1) 古今和歌集 (2) 拾遺和歌集 (3) 梁塵秘抄
 (4) 新古今和歌集 (5) 金槐和歌集

(神奈川大)

13 「竹取物語」の解説として該当するものを三つ選びなさい。

(神奈川大)

- (1) 多くの伝説や伝承にもとづいて生まれた作品であるが作者不詳である。
 (2) 『伊勢物語』や『大和物語』のような歌物語の系統に属し、これらの物語の中の最古の作品である。
 (3) かな文字による物語文学の最初の作品として平安朝文学の先駆となつた。